

JR北海道が行う事業範囲の見直しに対する町の方針について

はじめに、このたびのJR北海道の事業範囲の見直しに係る町の方針決定につきましては、住民皆様との町政懇談会や意見募集を行い、ご意見、ご要望、アイディアをたくさんいただきましたことに感謝申し上げますとともに、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、この度のJR北海道から本町に対し提案された、極端に利用の少ない駅（利用者が1日1人以下）のうち、糠南、南幌延、下沼の3駅の廃止については、鉄道や駅などの過去からの経過のほか、公共交通機関としての駅の位置付け、今後の駅の必要性も含め検討し、次のような方針としましたので報告いたします。

駅の概要と過去の経緯ですが、糠南駅、南幌延駅については乗降する箇所が木造ホームで、町内ではこの2駅だけであり、特に糠南駅はホーム上に設置してある物置が話題にもなっているほか、南幌延駅も同様のホームで、駅舎が手作りの物置の構造となっています。糠南、南幌延駅の待合について建設年度は不明ですが、町が設置したものとなっております。下沼駅は、地域に寺院が存在し、そこでは子どもを対象としたイベントが定期的に行われております。また、利尻・礼文・サロベツ国立公園に行くための駅としても使用されており、最近では駅前にある下沼の湧水は地元以外の近隣町村の方々からも利用されています。

昨年度から今年度にかけて秘境駅事業を実施しており、昨年度は雄信内駅を中心とし、今年度は問寒別駅、下沼駅、雄信内駅においてミニイベントなどを行っています。

そのうち、下沼駅が大正15年の開駅から90年という卒寿イベントを開催し、地域の皆さんのご協力のもと実施しております。

また、各駅に置いている駅ノートへの書き込み数を調査集計した結果、平成26年度が年間220件だったのに対し、秘境駅事業をはじめた平成27年度は750件となり、平成28年10月末現在で1,315件の書き込みがありました。

秘境駅事業などを通じ、着実に訪問者が増加していることは判明しましたが、これらを地域の経済効果にどのように結び付けていくかなど、検討の余地がありそうです。

公共交通機関としての役割では、南幌延駅は冬期間の使用であるものの、駅近くの住民が医療機関や買い物などに利用していることが聞き取りでわかっております。

下沼駅は年数回ではありますが、市街地の子どもが下沼の寺院にJRを利用して出向き、子どもなどを対象にミニイベントを開催するなど、日常的ではないですが利用者がいます。

残念ながら糠南駅は地元の利用者は見受けられないものの、秘境駅を訪ねる愛好者が糠南駅でミニイベントを独自で開催しているようです。

これらの駅は、過去からの経緯のほか、鉄道が公共交通機関としての役割があるなか、日常的利用は少ないとはいえ地域住民など鉄道利用者が存在しており、また本町では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進する具体的施策として、「鉄道系資産の活用」を掲げ秘境駅を新たな観光資源として活用できないか可能性を調査検討している途中であり、3駅はその対象駅の一部でもあります。

また、JR北海道の経費節減策がまだ進行形であり、今後更に極端に利用の少ない駅の廃止提案がなされることが予想されますので、町内の駅の廃止が幌延駅の無人化へとつながる恐れがないか、そして、宗谷北線（名寄～稚内間）の路線維持又は廃止若しくはバス転換等にどのように影響していくかなどについても見極める必要があると考えます。

よって、今回、廃止提案のあった3駅については、JR北海道の経費節減策又は費用確保策の全貌が明らかになり、沿線地域の対応の方向性が定まった時点で総合的に判断することとし、毎年度ごとに駅をとりまく社会動向や維持管理費の状況を踏まえ、まずは1年間、幌延町が駅の維持管理費用を負担する形で存続させることとしたいと考えております。

今後も、国や北海道及びJR北海道などに対しては、引き続き要請活動などを行ってまいりたいと考えておりますので、住民の皆様、議会及び関係各位におかれましては、ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます、JR北海道が行う事業範囲の見直しに係る方針といたします。

問合せ先：住民生活課 生活環境グループ 電話：5-1115 告知端末機：5-8812